

## こんなところに縄文の村！



田岸遺跡遠景（北東から）



縄文土器

左：竹を半分に割った道具で文様を付けています。

右：お腹に両手を添えた妊婦を表現している土偶です。



土偶

田岸遺跡は、のと鉄道西岸駅から北へ約 1.5 km の七尾湾を望む海岸段丘につくられた縄文時代中期中葉の集落遺跡です。国道 249 号改築に先立ち発掘調査を実施し、今年で 2 年目になります。

今回の調査では、遺物包含層はありませんでしたが、竪穴建物で石で四角く囲った炉（石囲炉）を伴うものが 4 棟、炉の跡と考えられる焼けた土（焼土）を伴うものが 2 棟で、合計 6 棟の建物が確認されました。また、直径



R1 発掘調査

たぎしいせき ななおし  
田岸遺跡 [七尾市]

3 m ほどの大きな土坑 5 基、掘立柱建物、建物となる可能性のある柱列など見つかりました。これらは帯状に緩やかに弧を描くように見つかり、昭和 39 年や平成 6 年の発掘調査でわからなかった集落の様相を確認することができました。珍しいものとして、石列が二重にめぐる類例のない石囲炉も見つかりました。また、竪穴建物からは多くの土器や石器の他に土偶も見つかり、当時の生活の一端をかい間見ることができました。



竪穴建物 (S I 1)  
縄文時代の一般的な住居の竪穴建物です。  
中央付近に細長い石囲炉が配置されていました。



石囲炉 (S I 4)  
やや角張った川原石を使って作られた石囲炉です。  
コーナーにやや小さい石を配置し全体を整えています (矢印)。



竪穴建物 (S I 5)  
石列が二重にめぐる石囲炉のある竪穴建物です。  
手前 2 本の柱の間が出入り口と思われます。



石囲炉 (S I 5)  
二重に巡る石列のうち、外側の石列を貼り付けるように作られた珍しい石囲炉です。炉の中からは埋設した土器が見つかりました。



竪穴建物 (S I 3)  
検出面から床までは約 90 cm と深い竪穴建物です。  
中央付近には焼土、壁際に溝と柱穴が見つかりました。

## R1 発掘調査

しょう にしじま いせき かがし  
庄・西島遺跡 [加賀市]

庄・西島遺跡は、江沼平野のほぼ中央に位置する弥生時代後期から中世の集落跡です。広大な面積をもつ本遺跡は、この地域の中心的な集落の一つと考えられています。国道改築に伴い平成 27 年度から発掘調査を進めており、5 年目となる今回の調査は、遺跡の南東に当たる区域を対象としました。

調査地西側に位置する津波倉町地内の J 2～4 区と K 3 区は、古代の掘立柱建物 2 棟の他は遺構・遺物ともに希薄で、遺跡縁辺にあたることわかりました。庄町寄りに位置する W 1～6 区は、古墳時代～中世に河川が交錯する低地で、杭や板を用いた古代～中世の護岸の跡や、流れ込んだ大量の板材の他、建築部材や曲物のようき、いぐしといった木製品が出土しました。

桑原町地内に位置する V 1～3 区・S 7 区には、小河川によって東西に分断された微高地上に、古墳時代～古代の集落が営まれていました。古墳時代の遺構は溝や廃棄土坑など僅かでしたが、河跡から多数の土器が出土し、なかでも東岸で出土した須恵器甕は、古墳時代中期の朝鮮半島南部の技法でつくられた可能性のある注目の資料です。古代では、東側の微高地上にあたる S 7 区で掘立柱建物の柱穴多数を、また西側の微高地の V 1～3 区でも掘立柱建物 6 棟の他、多数の柱穴を検出しました。この他、近接する河跡等から、墨書土器が今回初めて出土しました。不鮮明な文字であるため判読は今後の課題ですが、本遺跡に関わった人々を理解する数少ない文字資料となります。



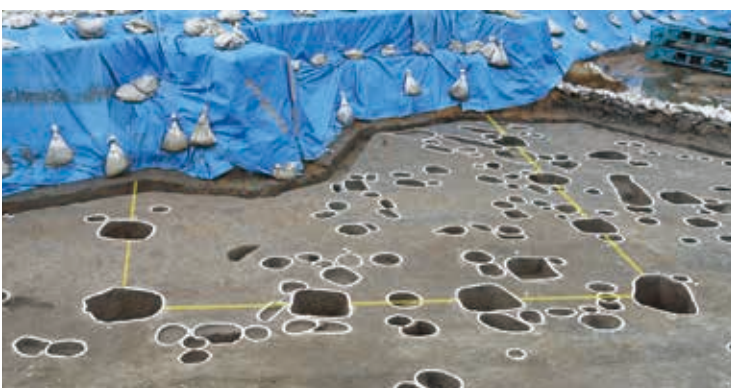
調査区遠景 (V3 区・北東から)



河跡の木製品出土状況 (W1 区)



朝鮮半島の製作技法がみられる甕の出土状況 (V1 区)



掘立柱建物 (V3 区・北から)



古墳時代の溝 (V3 区・南東から)

R1 発掘調査

ひとつはり いせき こまつし  
一針C遺跡 [小松市]

一針C遺跡は、梯川右岸に立地しています。平成25年度より梯川改修築堤工事等に伴う調査を行った結果、弥生時代から中世にかけての複合遺跡であることが明らかになってきました。平成31年度は、前年度に引き続き上・中・下層の三面の調査を行いました。

上層では中世の掘立柱建物や井戸等、中層では古代～中世の掘立柱建物や堀等、下層では弥生時代後期～古墳時代の平地式建物や掘立柱建物、溝などを検出したことから、長期にわたって断続的に居住域として利用されていたことが確認できました。調査の最終面である下層には、弥生時代の遺構に加え、上位からの掘り込みが多数届いており、各時代の遺構が非常に錯綜した状況を呈することとなりました。

今回の調査で注目される遺物に中世後半期の井戸から出土した三具足（みつくそく 仏具の花瓶・ぶつぐ 香炉・けびょう 燭台）があります。全点銅製で細部の造りに共通性が認められるもので、元々セット関係にあった3点がまとめて廃棄されたものと考えられます。金属器としての残りが特に良好で、べつ別鑄で取付けられた香炉の耳が片方欠失している他はほぼ完全な金工品資料です。



遺跡遠景（西方、下流側から）



中層の様子（二重の堀など）



下層の様子（写真上が北）



仏具（銅製三具足）  
左：花瓶、中央：香炉、右：燭台



井戸の底で見つかった仏具

## R1 古代体験

## 古代体験ミニ講座 『弥生はたおり体験』

令和2年2月23日（日）にミニ講座「弥生のはたおり体験」を開催し、28名の参加がありました。最初に、布の歴史と糸づくりについてのガイダンスと職員による実技解説を行い、その後、弥生時代に使用され始めた機織り具の「原始機」の復元品を用いて布づくりを体験しました。

参加された方々は、タテ（経）糸の上糸と下糸の間にヨコ（緯）糸を通して交差させることを繰り返し、幅8cm、長さ15cm程度の布を1時間くらいかけて織り上げました。

「難しかった」といった感想も聞かれましたが、みなさん古代の技術を習得し、出来上がった作品に満足した様子がみられました。



布の歴史と糸づくりのガイダンス



職員による実技解説



タテ糸にヨコ糸を通して織ります



あと一通りで織り上がりです



最後にタテ糸の端を結んで仕上げます



完成です

R2 発掘調査

しまいせき こまつし  
島遺跡 [小松市]

島遺跡は、小松市月津台地<sup>つきづ</sup>の南東部に位置し、遺跡の北東には木場潟が存在します。北陸新幹線本線工事に伴う調査が平成 29 年度に行われ、古墳時代終末～室町時代の集落を確認しました。今回の調査は新幹線本線脇の取付道路工事に伴うものです。平成 29 年度調査区と隣接し、前回調査の遺構の繋がりを確認しました。

古墳時代と考えられる掘立柱建物の柱穴が新たに発見されました。前回調査した古墳時代の掘立柱建物の南側にあたり、2 棟並んでいたと推察されます。また、奈良～平安時代の溝の続きを検出し、その土層断面観察により、流水時の土層堆積物がないことから、流水のない区画溝として使われていたと考えられます。

集落の中心は、調査地東側の台地縁辺に展開しているものと考えられます。当時の木場潟は現在より湖面が広く、集落の眼下に木場潟を望む景観だったと想定されます。



調査地の遠景（北東から）



調査区（V区）完掘状況（北から）



奈良～平安時代の溝（南から）



新たに見つかった古墳時代の掘立柱建物（南から）



奈良～平安時代の須恵器出土状況



発掘調査状況

## R2 古代体験

## 古代体験学習講座 『弥生土器づくり』

令和2年6月21日(日)に「弥生土器づくり」を開催しました。新型コロナウイルス感染症防止のため、体調の確認や検温、換気と手洗い、マスク着用、距離を確保する、定員を10名にするという対策をした上で講座を行いました。

最初に弥生時代のくらしや土器の特徴についてのガイダンスです。縄文土器の深鉢と比べて弥生土器の甕は薄いので熱効率がよく、より短時間で煮炊きできること、甕・壺・高杯・器台などの種類があること、条痕文⇒櫛描文や凹線文⇒擬凹線文と文様が変化していくことなどについて学びました。

次に、小松市八日市地方遺跡、羽咋市吉崎・次場遺跡、金沢市戸水B遺跡などの甕や壺をモデルとして、本物をじっくり観察しながら土器づくりに取り組みました。同じ太さの粘土紐をつくり、輪積みし、粘土紐の接合痕をナデ消す、を繰り返して成形していきます。最初は同じ太さの粘土紐をつくれず、戸惑っていた方もいましたが、徐々に慣れていき、本物に近い形の甕や壺も見られました。

最後に文様です。参加者のみなさんは、細かい櫛描文が密に施された壺をじっくり見て弥生人の技術の高さに感心していました。完成した土器は3週間ほど乾燥させ、焼成してから引き渡しとなります。



弥生土器のガイダンス



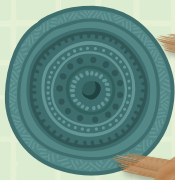
粘土紐を積み上げてつくります



じっくりと観察しています



完成した作品



# まいぶん日誌

2020  
(令和2年)

3月～6月



3月

新型コロナウイルス感染拡大防止のため  
体験工房が休館となりました



4月

埋文センター新任職員  
の古代体験研修です



火おこしにチャレンジ!



「体験ひろば」の土を  
入れ替えました!

職員研修で縄文土器づくり



4/11 から臨時休館です  
さびしいです



5月

発掘現場へ器材の引越、いざ! 出立!!



学習講座の「縄文土器づくり」は  
11月に延期となりました

6月

職員研修で弥生土器づくり!



県指定文化財野々江本江寺遺跡出土品  
春季公開の準備中



県指定文化財  
公開準備万端、整いました



5/25  
本館再開です

出前考古学教室!  
今年は6月からスタートです



「発掘された日本列島 2020」に  
小松市八日市地方遺跡出土品が出品!

ぬりえや  
ペーパーフラフトなど  
「おうちで古代体験」



大切に梱包され、  
まずは東京へ!



職員製作の縄文土器の  
野焼きをしました